

# 日韓における外来語と既存語の意味関係 - 「スペース」と「空間」の通時的な研究 -

メタデータ	言語: 出版者: 明治大学大学院 公開日: 2023-09-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 黄,秀智 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10291/0002000098">http://hdl.handle.net/10291/0002000098</a>

# 日韓における外来語と既存語の意味関係： 「スペース」と「空間」の通時的研究

## Semantic Relationships of Foreign and Native words in Japanese and Korean: A Diachronic Study of 'Space' and 'Kūkan'

博士後期課程 国際日本学専攻 2018 年度入学

黄 秀 智

HWANG Sooji

### 【要旨】

本研究は、日本語における外来語「スペース」とその類義語「空間」、韓国語における「space」と「공간」を取り上げ、コロケーション分析を通して、現代の日韓外来語の使用状況の実態を比較分析し、日韓の違いを把握し、戦後から現代に至るまでの変遷過程を明らかにするものである。

現代の日本語では、「スペース」は「空間」の一部の意味を担い、「具体的空間」に関連する部分で使用されている。戦後からの推移を見ると、1949年に「紙面の空間」から「心のスペース」という「抽象的空間」へ、1965年からは、主として「具体的空間」の意味へと拡張し、その使用が増加していくことが分かった。一方、現代の韓国語では、「스페이스 (space)」は、ほとんど使用されず、「공간 (空間)」のみが使用されている。戦後からの推移をみると、1965年と1975年には、「具体的空間」としての使用が少し見られるが、その後、見られなくなり、使用頻度の増加も見られなかった。このことから、日本語の「スペース」は「空間」の意味を一部担い、「具体的空間」の意味として使用されるが、韓国語の場合は、「공간 (空間)」の使用が著しいことで、外来語が輸入されても既存語の意味を担い、使用頻度が増加するという現象は生じにくいとまとめることができた。

【キーワード】 日韓対照研究、外来語の使用状況、通時的研究、意味分析、コーパス

## 1. はじめに

日本語と韓国語の対照研究で、CHANG（2016）では、日韓の現代の均衡コーパスの語彙表を用いて日本語の外来語の使用率が韓国語のそれより2倍弱高いことを明確にしており、岸本ほか（2022）では、2016年から6年間の新聞社説を用いて、社説の中での外来語の出現率が日本語の方が2.5倍弱高いことを指摘しているが、どのような外来語に頻度の差があるのか、また、頻度の差がある外来語には、意味に違いがあるかどうかについては、十分に検討されていない。

そこで、本研究では、この実態を明らかにするために、現代の新聞データを利用して外来語の頻度比較を行い、「日本語-高頻度・韓国語-高頻度」「日本語-高頻度・韓国語-低頻度」「日本語-低頻度・韓国語-高頻度」「日本語-低頻度・韓国語-低頻度」の四つのグループに分ける。その中で「日本語-高頻度・韓国語-低頻度」の日本語でよく使われているが、韓国語ではあまり使われないグループの語を取り上げ、戦後から現代までに日韓外来語の差が生じた過程を明らかにすることを目的とする。一方、日本語における外来語の変化を研究した金（2008）は、外来語の基本語化の過程を既存語との意味関係で説明しており、また、佐藤（2013）は、現代における外来語の意味特徴を既存語との関係から明確にしている。こうした研究に倣って、本研究でも外来語と既存語との関係を分析していく。

この目的を実現するためには、現代における外来語の意味とその類義語との意味関係を確認した上で、長期間にわたる意味変遷と頻度推移を分析する必要がある。そのため、以下の手順に従って、研究を進める。

まず、第一に、日本語と韓国語の辞書の意味から日韓で使用されている基礎的な定義を把握する。その後、2000年以降の新聞データから用例を抽出して、前後の文脈から対象語のコロケーション情報を分析し、その意味を把握する。同様に、外来語の「スペース」と類義語の「空間」のコロケーション情報を分析して対象語（外来語）と類義語（漢語・既存語）の意味関係を考察して、①現代の外来語の意味を把し、日本語と韓国語の差異を明らかにする。ただし、新聞データにおける用例が不足している場合、日本語は『現代日本語書き言葉均衡コーパス（以下、BCCWJ）』を、韓国語は『世宗コーパス（ver.2010年配布）』を利用する。

次に、戦後から現代に至るまでの推移は、日本語は『昭和・平成書き言葉コーパス（以下、SHC）』の新聞と雑誌のデータを、韓国語は、現代と同様に作成した1945年からの新聞データを用いて各年における語の出現頻度とコロケーション情報を分析する。この分析を通じて、②現代の日本語と韓国語における外来語の差異がいつから生じ、どのように変化してきたのかを考察する。頻度推移を捉える際には、100万字当たりの出現率（以下、出現率）を算出し、比較を行う。

## 2. 日韓の現代の外来語の量的比較

### 2.1 外来語の抽出

日本語の場合、歴史的な観点での外来語研究が多く報告されている。その中でも、金（2011）は、『毎日新聞』の1950年から2000年までの記事を10年刻み収集し、大規模なコーパスを構築した。収集した記事は毎月5日と25日分の二日分で、各年200万字程度、全期間で合計で1000万字を超える。このコーパスから通年度数30以上の外来語を抽出し、増加傾向係数を算出した。この結果を基にして、金（2011）は、20世紀後半の新聞の外来語の基本語化を明らかにした。また、橋本（2010）では、通時的分析のため、『朝日新聞』の社説の1911年から2005年まで毎年1日分、『読売新聞』の1932年から2002年まで5年ごと、月1日分の社説を用いて、日本語の外来語の量的推移を「S字カーブ」で説明した。

これらの先行研究を参考にし、新聞を用いて分析用のデータを作成する。本稿では、2000年ごろ以降を「現代語の範囲」とした。4章で通時的な変遷を見る際にも利用可能なように、金（2011）に倣って10年刻みでデータを作成する。日本語は、金（2011）の1950年からの変遷を見るために、2000年、2010年、2020年の3カ年を対象にする。韓国語については、戦後直後（1945年）からの変遷を検討するために、1995年、2005年、2015年の3カ年を対象にする。

まず、日本語は、『CD—毎日新聞データ集』を用いて、2000年、2010年、2020年の各年5日と25日分の見出しと記事本文のテキストを抽出して「UniDic辞書」による形態素解析ツールの「web茶まめ」を用いて形態素解析を行い、外来語を取り出す。次に、韓国語は、新聞の『東亜日報』のpdf版を用いて1995年、2005年、2015年の毎年12月の一ヶ月分から新聞本文を抽出し、形態素解析器である「kiwi」を用いて形態素解析を行い、外来語を取り出す。外来語は日本語と同様に意味を持つ最小単位（以下、短単位）を用いるため、韓国語の外来語を日本語に訳した後、「web茶まめ」を用いて再度解析し、韓国語も「短単位」に合わせて分析した。

こうして作成したデータについて、年次別と3カ年合計の文字数と外来語の延べ語数・異なり語数を示すと以下のようである。

表1 調査対象にした日本の新聞データによる各年の文字数と外来語の延べ語数・異なり語数

年代	2000年	2010年	2020年	合計
新聞の全体文字数	3,829,929	2,941,407	2,463,459	9,234,759
外来語の延べ語数	62,521	48,080	45,011	155,612
外来語の異なり語数	4,727	4,024	3,550	6,612

表2 調査対象にした韓国の新聞データによる各年の文字数と外来語の延べ語数・異なり語数

年代	1995年	2005年	2015年	合計
新聞の全体文字数	2,689,943	2,285,273	2,627,260	7,602,476
外来語の延べ語数	28,521	26,400	34,578	95,672
外来語の異なり語数	1,352	1,117	1,601	2,451

## 2.2 ランク分けによるグループの設定

次に、ある程度の頻度で使用される外来語を取り出すため、抽出した外来語から、平均して各年5回以上、通年度数15回以上の語を抽出する。使用の多少を把握する基準として、出現する語彙を頻度順に並べ、5等分にして、a, b, c, d, eの5段階のランクづけを行い、リスト化する。同じ頻度の場合は、各ランクに入る語数を見て、等分に近くなるように調整を行う。対象となる外来語は、日本語は1460語、韓国語は797語であるが、各ランクに相当する通年度数になる頻度区間と語数を示すと以下のようなものである。

表3 通年度数15回以上の外来語のランクと頻度区間

ランク	日・頻度区間 (語数)	韓・頻度区間 (語数)
a	3037 ~ 102 (291 語)	3532 ~ 111 (159 語)
b	101 ~ 51 (292 語)	110 ~ 51 (159 語)
c	50 ~ 29 (312 語)	50 ~ 31 (163 語)
d	28 ~ 20 (286 語)	30 ~ 20 (172 語)
e	19 ~ 15 (279 語)	19 ~ 15 (144 語)

上記のようにランク分けを行った上で、エクセルのピボットテーブルの機能を用いてクロス集計を行い、通年度数15回以上の日本語を基準とした韓国語の外来語のランクの語数と比率を示したのが、以下の表4である。

表4 日本語を基準とした韓国語の外来語のランクの比率

韓国 日本		K-a	K-b	K-c	K-d	K-e	K-なし	合計
		J-a	%	7.67%	2.95%	2.33%	1.30%	0.89%
	語数	112	43	34	19	13	70	291
J-b	%	1.71%	2.81%	2.60%	1.71%	0.82%	10.34%	20.00%
	語数	25	41	38	25	12	151	292
J-c	%	0.68%	1.99%	1.92%	1.85%	1.44%	13.49%	21.37%
	語数	10	29	28	27	21	197	312
J-d	%	0.14%	1.10%	0.62%	1.16%	0.96%	15.62%	19.59%
	語数	2	16	9	17	14	228	286
J-e	%	0.21%	0.55%	0.75%	0.82%	1.30%	15.48%	19.11%
	語数	3	8	11	12	19	226	279
合計	%	10.41%	9.38%	8.22%	6.85%	5.41%	59.73%	100%
	語数	152	137	120	100	79	872	1460

なしの場合は、①対象言語に出現しないか、②通年度数が15回未満であるため、対象外としたものである。本稿では、前述のように「日本語ではよく使われるが、韓国語ではあまり使われない外来語」に着目し、分析を進める。a, b ランクである高頻度ランクと d, e ランクである低頻度ランクのグループを設け、「日本語 - 高頻度, 韓国語 - 低頻度 (以下, J-H, K-L, 網掛けの箇所)」の部分に入る語彙を抽出する。さらに、これらの語彙が現代においてどのような意味で使われており、通時的にどのような変遷を経てきたかを確認し、日韓の外来語の相違点とその背景について考察する。

ソフト, スタート, アップ, コメント, パラリンピック, リード, プラス, ライブ, ダム, イン, ベテラン, ナビ, シード, スペース, インフルエンザ, プラン, トーナメント, ワイド, エコ, サイド, フィギュア, カット, アマ, サポート, シネマ, マイクロ, シート, ライフ, ボルノ, タイミング, ダウン, プロデューサー, コンビ, コピー, ライト, カバー, クラスター, ロード, ドラフト, アーティスト, シティ, ソース, グランプリ, ヘッド, コム, オリジナル, ペン, バッグ, デスク, スポンサー, コントロール, ファミリー, コンテスト, タッチ, ロング, ゾーン, コレクション, パック, パフォーマンス, ハード, ホルモン, モーター, ピース, アレルギー, ボタン, レコード, バラエティー, スケジュール, シンク

上記のリストは「J-H, K-L」のグループに属する外来語 69 語を出現度数順に示したものである。このリストを一見すると、抽象的概念を持つ外来語が多いことに気づく。このグループ以外の、例えば、「日韓ともよく使用される (J-H, K-H)」のグループでは、具体物やその概念を表す外来語も多い。それに対して、「J-H, K-L」のグループで、抽象的概念を持つ外来語が多い背景には、何ら

かの事情があると考えられる。今回は、その一例として、抽象的概念を持つ、「スペース」を用いて日韓外来語の使用状況について分析を進める。

### 3. 現代におけるスペース（스페이스）の意味分析

#### 3.1 辞書における意味

本節では、辞書を用いて「スペース」の基礎的な定義を確認する。日本語の辞書は、大規模で用例などの全文検索が可能な『日本国語大辞典』を、韓国語の辞書は、現実の国語を積極的に反映している点、コーパスを用いて用例を採用した点、以前に使用されたが既存の辞典に採用されていない語を最大限搭載した点（Doh ほか，2009）で『高麗大韓国語大辞典』を用いて意味を確認する。

表5 日本語と韓国語の「スペース-스페이스」の辞書における意味

日本語	韓国語
日本国語大辞典	高麗大韓国語大辞典
1. 空間。 2. 特に、大きさを問題としたときの空間、平面。 2-1. 使用されずに残っている空間、平面。余地。 2-2. 空間、平面の割り当てられた大きさ。	1. [基本意味] ある場所で空いているところや席。 または、使わずに残った空間。 2. 何かをしたり、行ったりするために必要な空間。
2-3. 新聞雑誌などの与えられた紙面。	3. 新聞や雑誌、原稿などの紙面の余白。 4. 音楽楽譜の五線から各行間の距離。

表5は、日本語の辞書に基づいて韓国語の辞書で類似した意味を対応づけたものである。韓国語の辞書の記述は日本語訳して示した。表5に示した意味のほかに、日韓で共通している意味として「活版の組版で、字間をあけるために差し挟み込む物」、日本語の辞書だけ記述されている意味として「宇宙」「ツイッターの音声配信と交流のための機能」の意味があるが、本稿では、類義語の「空間」との意味関係を考察して日韓の意味の差異を把握するため、「空間・場所」の意味だけを取り上げ、分析を進める。

まず、日本語の1の意味である「空間・場所」は、韓国語の1・2の意味と、日本語の2-3の意味である「印刷物の紙面」は、韓国語の3・4の意味に対応する。上述のように、今回は「空間・場所」に注目して分析を進める。「空間・場所」の意味から日本語の韓国語の意味が類似しているように見えるが、記載されている内容を見ると違いがある。日本語の場合、『日本国語大辞典（以下、日国）』での記述を参考にして意味を確認した。辞書の記述から見ると、日韓とも「空いている・使用されない・余地・残った空間」など、[未使用の空間や使用可能な空間] という意味は同じであると考えられるが、日本語では、「平面の割り当てられた大きさ」の意味があり、韓国語では「何かをするために必要な空間」の意味があることから、多少異なる意味として使用している可能性が示唆される。

### 3.2 韓国語の「스페이스 (スペース)」の意味分析

そこで、日本の『毎日新聞』と韓国の『東亜日報』の用例から、どのような意味で使用されているかをコロケーションの情報の分析の観点から確認してみよう。

まず、韓国語の用例を見てみると、1995年には「오픈 스페이스 (オープンスペース)」と「사이버 스페이스 (サイバースペース)」が出現している。2005年には、新しい世代を表す表現として「마이 스페이스 (マイスペース)」が、2015年には「스페이스 콜로니 (スペースコロニー)」や「스페이스 오페라 (スペースオペラ)」の形で、宇宙に関わる複合語の用例が出現している。これらの用例は、すべて複合語形式で使用されており、2015年の宇宙に関わる複合語の用例以外には、コンピュータやネットワークの普及によって生まれた新しい概念として登場した「사이버 스페이스 (サイバースペース)」や「마이 스페이스 (マイスペース)」,そして都市計画や不動産などの土地関連用語として使用される「오픈 스페이스 (オープンスペース)」のみが出現している。「オープンスペース」や「マイスペース」の「スペース」は、「空間」や「場所」を指すものではあるが、原語の「open space」「my space」をそのままハングル表記した形で使用されているため、複合語形式のみが出現しており、新聞の用例で単独形式での使用はないと言える。

韓国語の「스페이스 (スペース)」の場合、『東亜日報』での用例数が極めて少ないため、均衡コーパスを用いて用例を抽出し、韓国語の「스페이스 (スペース)」の使用状況を確認していきたい。まず、韓国語の『世宗コーパス (ver.2010年配布)』を用いた検索ツールである『꼬꼬마 (KKMA)』から「空間・場所」を意味する「스페이스 (スペース)」の用例とコロケーション情報を確認すると、以下のようである。

表6 世宗コーパスでの「스페이스 (スペース)」コロケーション情報 (頻度順)

語	位置	分類	用例 (出現度数)
スペース 스페이스	前	抽象的	사이버 (サイバー, 18), 리얼 (リアル, 2), 하이퍼 (ハイパー, 1)
		具体的	자동차 (自動車, 1)
		特性 状態	오픈 (オープン, 7), 똑같은 (同じ, 1)
	後	特性 状態	적다 (少ない, 1), 절약하다 (節約する, 1), 많다 (多い, 1), 문제다 (問題だ, 1), 맞추다 (合わせる, 1)

まず、「스페이스 (スペース)」のコロケーション情報の意味を大きく「具体的」「抽象的」「特性・状態」に分けて、前後項目の語を分類した。コロケーション情報を収集する際には、「スペース」の直前直後に限らず、前後にある助詞を介して繋がる語も採集した。次に、「具体的」と「抽象的」を分類する際には、物体が存在する物理的な空間や人が利用・存在する場合は「具体的」、心理や仮想などの非物理的空間を指す場合は「抽象的」に分類した。コロケーション情報だけで判断が難しい場合は、「スペース」が含まれる文の全体をみて把握して分類した。

『꼬꼬마 (KKMA)』では、検索数 55 個の中、固有名詞や宇宙の意味で使用された用例を除外し

て「사이버 스페이스 (사이버스페이스)」が 18 例で, 出現が最も多く, 次に「오픈 스페이스 (オープンスペース)」が 7 例, 「사이버 스페이스 (사이버스페이스)」の反対概念として使用された「리얼 스페이스 (리얼스페이스)」2 例, 「하이퍼 스페이스 (하이퍼스페이스)」が 1 例出現している。

[1994, 書籍]

- (1) 일기를 쓸 때 매일 똑같은 스페이스에 맞춰 쓴다든지 (日記を書くとき, 毎日同じスペースに合わせて書くとか…)

[1994, 雑誌]

- (2) 빈 공간, 게다가 방의 수가 적어서 스페이스가 많다 (空いている空間, しかも部屋の数が少なくてスペースが多い)

[1998, 書籍]

- (3) 문서더미를 전자정보로 변환시켜 스페이스를 절약하고, 신속한 정보검색을 하고 있다 (文書を電子情報に変換させ, スペースを節約し, 神速な情報検索をしている)

[2003, 書籍]

- (4) 사람이 앉아 있는 의자보다도 밖에 세워 두는 자동차의 스페이스가 더욱 문제다 (人が座る椅子よりも, 外に止めておく車のスペースがもっと問題だ)

複合語形式以外の用例では, 「自動車のスペース」など, 単独形式の物理的空間やその空間の特性や状態を指す用例がいくつか出現している。しかし, この用例は「書籍」と「雑誌」のものであり, より公式な文体を特徴づける新聞とは性質が異なる。そのため, これらは一部の特異な使用例と捉える。また, 上記の用例以外の用例は見当たらず, 現代の韓国語では, 「스페이스 (スペース)」が単独形式の具体的空間として使用される例は極めて少ないと言える。さらに, 「사이버 (사이버)」 「리얼 (리얼)」 「하이퍼 (하이퍼)」 「오픈 (오픈)」 のように抽象的空間を指す用例については, それらが限定的な場面で使用されているだけであり, 思考や精神的な余裕を指す「心の中のスペース」といった日常的な表現とは異なるため, 抽象的空間として使われることも少ないと推測できる。

### 3.3 日本語の「スペース」の意味分析

次に, 日本語の使用状況を確認するため『毎日新聞』の用例を取り上げ, 分析を進める。

[2000 年, 毎日新聞]

- (5) 「訪問客が室外にあふれる」「資料を置くスペースがない」などの苦情が出ていた。
- (6) 普通車なら苦勞させられる駐車スペースでも, 頭から一発で止められる。例えば歩道の端を少し細工する程度で, スペース効率のいい路上の横並び駐車も可能になる。

[2010年, 毎日新聞]

(7) 手薄になった中盤のスペースを突かれ, 開始当初から何度かピンチを招いた。

[2020年, 毎日新聞]

(8) 感染リスクが比較的高いと考えられるトイレや休憩スペースについては「(便座の) フタを閉めて汚物を流すよう表示」「休憩スペースは常時換気することに努める」といった留意点も列挙した。

新聞の用例を見ると, 単独形式の「スペース」が見られ「駐車・休憩・置く」など, 韓国語では見られなかった語と共起していることが確認できる。表7と表8は『毎日新聞』の用例の中で「空間・場所」を意味する「スペース」の前後項目のコロケーション情報をまとめ, 表6のように分類したものである。

表7 毎日新聞における「スペース」の前項目のコロケーション情報

分類	用例 (出現度数)
抽象的	サイバー (2)
具体的	ワーキング (6), 駐車 (5), フリー (4), 展示 (3), 収納 (3), 置く (3), アート (2), 陳列 (2), 休憩 (2), ファミリー (2), 専用 (2), 乗せる (2), 裏 (2), 紙面 (2), フォト (1), 会場 (1), 分別管理 (1), 喫茶 (1), 業務 (1), おむつ替え (1), CD用 (1), 発熱者 (1), 避難所 (1), 避難者 (1), 収容施設 (1), 空き (1), 共有 (1), 事務所 (1), 共用 (1), 居住 (1), 洗車 (1), 車1台 (1), 空車 (1), パスを回す (1), シュートする (1)
特性 状態	限られる (4), オープン (2), 独特 (1), 多目的 (1), 残り (1), 不思議 (1), ユニーク (1), 広い (1)

まず, 前項目のコロケーション情報を見ると, 「ワーキング・業務・分別管理・洗車」など[活動や管理], 「駐車・収納・置く・陳列・車1台」など[物品やその物品を保管]の共起語が見られる。また, 「発熱者・避難所・避難者・収容施設」の[特殊な状況や緊急事態における人々の利用・行動]など, 具体性を表す共起語が多く見られる。韓国語とは異なり「限られる・不思議・ユニーク」のように[特殊性・独自性]を示す語も確認できる。

表8 毎日新聞における「スペース」の後項目のコロケーション情報

分類	用例 (出現度数)
具体的	突かれる (3), 用意する (2), 再開する (2), 使う (2), 足りない (2), 作る (2), 与える (1), 十分にとる (1), 請求 (1), 公開される (1), 開かれる (1), 誕生する (1), 陥う (1), 設ける (1), 置く (1), 設置 (1), 確保する (1), 必要だ (1), 開設する (1), 飛び出す (2), 埋められる (1), 維持する (1), 消す (1), 並んでいる (1)
特性 状態	ない (2), 多い (1), 広く (1), 制約がある (1), 限界がある (1), ある (1), 楽しめる (1), 同じだ (1), 効率のいい (1), できる (1), 見える (1), なる (1)

次に, 後項目のコロケーション情報を見ると「用意する・作る・公開される・誕生する・設ける・

設置・確保する・再開する・開設する」など，「具体性を持つ空間の生成や提供の行為」を表す用例が多く出現している。日本語の「スペース」の場合，前後項目に具体的な性格を持つ共起語が多く，その空間の特性や状態を示す多様な共起語が使用されていると言えよう。

以上のことから，現代の日韓での「スペース (스페이스)」の使用状況をまとめると，韓国語の場合は「空間・場所」を意味する「스페이스 (スペース)」は「오픈 스페이스 (オープンスペース)」と「사이버 스페이스 (サイバースペース)」，「마이 스페이스 (マイスペース)」のように，複合語形式で限定的な場面での使用が一般であり，具体的な空間を意味する単独形式としての用例は非常に少ない。一方，日本語では，「オープンスペース」や「サイバースペース」のような韓国語で見られた用例は比較的少なく，単独形式の「スペース」が具体的な空間を指す多様な共起語と組み合わせられ，使用される傾向が見受けられる。

### 3.4 現代における日韓の「スペース」の類義語「空間」との意味関係

#### 3.4.1 韓国語における「스페이스 (スペース)」と「공간 (空間)」の意味関係

本節では，「スペース」と類義語との比較を通じて，3.2 節で明らかにした現代の日韓における「スペース」の使用状況の違いに関する要因を考察する。辞書の意味から，日韓ともに「スペース」の代表的意味を「空間」で記載しているため，類義語である「空間 (공간)」の使用状況を確認し，「スペース」との意味関係を考察する。以下は，『東亜日報』の「공간 (空間)」の前後項目をまとめて示したものである。

表9 東亜日報における「공간 (空間)」の前項目のコロケーション情報

分類	用例 (出現度数)
抽象的	時 (4), 仮想 (4), 遊び (3), 韓国的 (2), 創作 (2), 疎通 (2), 保管する (2), 確認できる (1), 解消する (1), 特別な (1), 定着 (1), 再編成される (1), 認識 (1), 唯一 (1), 神聖な (1), 小説の (1), 想像力の (1), 利用できる (1), 複合 (1), 魅力的な (1), 心を植え付ける (1), 有意義な (1), 独立した (1), 異なる時間帯の (1), 功績 (1), 3次元的 (1), サイバー (1), 言語 (2), テーマ (1), 音楽 (1)
具体的	休息 (14), 解放 (10), 展示 (8), 室内 (8), 文化 (7), 代案 (7), 都市 (6), 避難 (6), 緑地 (6), 商業 (4), 韓屋 (2), 住居 (2), 宇宙 (2), 収納 (2), 書式 (2), 患者たちの (1), 青い (1), フラット (1), 探検の (1), 展示館 (1), 作業 (1), 映画の (1), 実験 (1), 市民 (1), 水景 (1), 洗濯機 (1), 西洋式 (1), 生活 (1), ベランダ (1), 美術 (1), ドミトリー型 (1), グビン (1), 公演 (1), リビングルーム (1), 中央 (1), 4坪 (1), 執務 (1), 体験 (1), 提供 (1), 勉強できる (1), 講義 (1), 生産 (1)
特性状態	広い (4), 狭い (3), 密閉された (3), 快適な (2), つなぐ (2), 開かれた (2), もらった (2), わずかな (2), 私の (2), 拡張された (1), 静かな (1), 一部 (1), 隣接 (1), 遠近法 (1), 外部 (1), 歪んだ (1), こじんまりとした (1), 新行儀の (1), 空き (1), 秘密の (1), 合わせた (1), 後部座席 (1), 走る (1), 目が覚めた (1), 溢れる (1), 内部 (1), 内緒の (1), ロマンチック (1), 基本 (1), 曲がりくねった (1), レース (1), のような (1), 癒し (1), 優れた (1)

表 10 東亜日報における「공간 (空間)」の後項目のコロケーション情報

分類	用例 (出現度数)
抽象的	変化させる (1), 演出される (1), 備える (1), 十分である (1), 創造する (1), 効率が高い (1)
具体的	確保する (7), 用意する (4), 作る (3), 造成する (3), 見せる (2), 飾る (2), 占有する (2), 活用する (2), うまく活用する (1), デザインする (1), 固まる (1), 構成する (1), 扱う (1), 利用する (1), 保存する (1), 運営する (1), 入る (1), 節約する (1), 提供する (1), 陳列する (1), 探求する (1), 革命する (1), 回復する (1)
特性 状態	不足する (6), 分離する (2), 広い (1), こじんまりしている (1), つなぐ (1), 多い (1), 適当だ (1)

表 9 と 10 をみると「스페이스 (スペース)」では見られなかった、多様なコロケーション情報が確認できる。日本語では、外来語である「スペース」の共起語として [具体性を持つ空間の生成や提供の行為] を意味する用例が出現していたが、韓国語では「공간 (空間)」の後項目の共起語として「用意する・造成する・作る・提供する・確保する・備える」など [具体性を持つ空間の生成や提供の行為] の用例が出現している。また、日本語の「スペース」で見られる「展示・休息」など [活動や管理], 「収納・陳列する・4 坪・洗濯機」など [物品やその物品を保管] の共起語や「避難・患者たちの」の [特殊な状況や緊急事態における人々の利用・行動] の共起語も確認できる。

要するに、韓国語の場合は、「스페이스 (スペース)」より漢語である「공간 (空間)」と共起する語が多く、また、日本語では、外来語である「スペース」と共起する語が、韓国語では「공간 (空間)」と共起する点で、日本語の「スペース」が持つ意味領域が韓国語の「스페이스 (スペース)」より広範であることや韓国語の場合は、漢語である「공간 (空間)」の意味の一部を「스페이스 (スペース)」が担うことはできないことがうかがえる。

### 3.4.2 日本語における「スペース」の「空間」の意味関係

次に、日本語をみてみよう。日本語の「スペース」の類義語である「空間」の使用状況を確認すると以下のようなものである。

表 11 毎日新聞における「空間」の前項目のコロケーション情報

分類	用例 (出現度数)
抽象的	仮想 (11), サイバー (3), 象徴 (3), 生活 (3), 物語 (2), 計りしれない (1), 果てしない (1), 構成した (1), 内省的な (1), 多様な (1), 累積した (1), 夢 (1), 美しい (1), 事実という (1), 散策 (1), 上演 (1), 圧巻の (1), 演技 (1), 芸術的 (1), 音楽 (1), 異 (1), 自然 (1), 静寂 (1), 住 (1), 集中できる (1)
具体的	宇宙 (8), 室内 (5), 大 (4), 歩行 (4), 公共 (3), 密閉 (3), ネット (2), 居住 (2), 共有 (2), 3階 (1), 4畳半ほど (1), キッチン (1), スケルトン (1), 居室 (1), 軍事 (1), 内部 (1), 立体 (1), 半屋外 (1), 歩行者 (1), 小さな (1), 小屋裏 (1), 収容 (1), 市場 (1), 駅 (1), 二界面 (1), 展示 (1), 浄水場 (1), 土間 (1), 縦方向 (1)
特性状態	私的 (2), 静かな (2), ゆったりした (2), インテリア (1), このような (1), スキのない (1), つながる (1), バーチャルな (1), はりつめた (1), プライベートな (1), あふれる (1), 濃密な (1), ある (1), 清潔な (1), 豊かな (1), 同じ (1), 快適な (2), 楽しい (2), いい (1), 強い (1), 開放感のある (1), 新たな (1), 身近な (1), 快適 (1), 閉じた (2), 狭い (1), 余った (1)

表 12 毎日新聞における「空間」の後項目のコロケーション情報

分類	用例
抽象的	似合う (2), 生かす (2), くつろげる (1), とらえる (1), 関する (1), 求める (1), 両立した (1), 思う (1), 殺人 (1), 心地よさ (1), 役割 (1), 有効 (1), 意識する (1), 移行する (1), 狙った (1), 存在感を高める (1), 重点を置く (1), 捉える (1), 統治機関 (1), 味わう (1), 楽しむ (1), 提案 (1), 描く (1), 身を浸す (1)
具体的	作る (4), 広げる (5), 設計 (3), 作り出す (3), 構成する (2), 実現 (2), 入る (2), 整備 (2), 取引 (2), ネットワーク化 (1), バリアフリー化 (1), 加える (1), 加わる (1), 攻撃能力 (1), 広がり (1), 広さ (1), 区分け (1), 近接する (1), 起きる (1), 利用する (1), 埋め尽くす (1), 変える (1), 生かせる (1), 生み出す (1), 生む (1), 設ける (1), 維持する (1), 有効利用する (1), 作り (1), 長くいる (1), 吊り下げ (1), 展示 (1), 早変わりする (1), 住む (1), 注力 (1), 増やす (1), 真空状態になる (1), 創り出す (1), 創造 (1), 破壊する (1), 把握する (1), 抱える (1), 確保する (1), 確保できる (1), 確認する (1), 拡充 (1), 外にある (1)
特性状態	カネになる (1), せぬ歯止め (1), できる (1), ない (1), なる (1), ファンタジー (1), 過ごせる (1), 突きつけた (1), 生きる (1), 快適 (1), 注力 (1), 残る (1), 余裕 (1), 限る (1), 心地よい (1)

表 11 と 12 は、日本の『毎日新聞』における「空間」の前後項目のコロケーション情報を示したものである。内容をみると、「スペース」でも見られた[活動や管理][物品やその物品を保管][特殊な状況や緊急事態における人々の利用・行動][具体性を持つ空間の生成や提供の行為]を示す共起語が確認できる。しかし、3.2 節の「スペース」のコロケーション情報では見られなかった「快適な・豊かな・象徴・仮想・清潔な・濃密な」といった概念的な表現がより多く見られ、「宇宙・

自然・夢・内部」など「スペース」より指している「空間」の広さがより広範であるように見える。また、「用意する・作る・開設する」といった表現の上位概念として説明できる「整備・構成する」の出現も確認できる。「スペース」より「空間」の方が抽象的空間を表す用例が多いが、『日国』で定義される「空間」の意味が「上下四方の無限の広がり」であることから、「スペース」は具体的空間とその空間を利用する場面で使用される一方、「空間」は「スペース」より広範の具体的空間での使用や抽象的空間、「快適な、新たな、豊かな」などの抽象的な概念に対しても幅広く使用されていると考えられる。

### 3.4.3 「スペース」と「空間」の意味関係の日韓比較

以上のように、現代の日韓における「スペース」とその類義語である「空間」の使用状況を分析した。その結果、韓国語では、外来語である「스페이스 (スペース)」は、具体性を持つ単独形式の使用は見当たらず、限定的な場面での複合語形式の用例が見られた。しかし、漢語である「공간 (空間)」の場合、具体性を持つ単独形式の使用や抽象的空間、その空間の特徴・状態を表す多様な共起語が見られ、韓国語は、「공간 (空間)」の意味領域が広範であると考えられる。

一方、日本語の「スペース」は、具体性を持つ空間を意味し、「空間」は「スペース」より広範な具体的・抽象的空間とその空間の概念的特徴までカバーできることがわかる。「空間」の意味領域の中に「スペース」が位置付けられ、既存語の意味の一部を外来語である「スペース」がカバーすることができると説明できる。

## 4. 戦後から現代までの変遷過程

3.1 節で述べた、現代の日韓外来語の違いがなぜ生じたかを考察するために、歴史的な観点で遡り、戦後から現代までの変遷過程を確認する。ここでは、現代までの推移を確認するため、先行研究である金 (2011) の研究内容を参考にし、1945 年の 12 月から 10 年刻みに 1995 年の 12 月までの一ヶ月 X8 年分のデータを作成して、戦後から現代に至るまでの「스페이스 (スペース)」の変遷過程を確認する。日本語の場合は、1950 年から 2000 年までの量的推移の確認は金 (2001) のデータを用いるが、用例を確認する際には、昭和平成書き言葉コーパス (以下、SHC) の雑誌データから用例を抽出して「スペース」のコロケーション情報を確認する。本節では、量的推移とともに変遷過程を考察するため、出現率 (100 万字当たりの外来語の出現度数 (出現度数 / 総文字数 × 10<sup>6</sup>)) を計算して出現率を算出した上で、分析を進める。

表 13 韓国語の「스페이스 (スペース)」の 1945 年から 2015 年までの推移

스페이스	1945	1955	1965	1975	1985	1995	2005	2015
出現度数	0	0	1	1	0	5	11	2
出現率	0.00	0.00	1.32	0.75	0.00	1.86	4.81	1.14

まず、韓国語の場合は、1965 年と 1975 年に各 1 例が確認されるものの、それ以外の用例はほ

とんど見られず、2000年以前の出現はまれであると言えよう。

[1965年, 東亜日報]

- (11) 이 적은 스페이스를 통해 조그만 목탁을 올려온… (この少ないスペースを通して小さな木鐸を鳴らしてきた…)

[1975年, 東亜日報]

- (12) 아마 活動予算도 제일 많은 것으로 아나 스페이스 타인지 도서같은 것이 그 연수만큼은 구비돼있지 못하다. (多分, 活動予算も多いと考えられるが, スペースのせいか図書のようなものが, その経歴ほど用意されていない。)

上記の例は、「少ないスペース」は「具体的」, 「スペースのせい」は「特性・状態」で分類できる。しかし、1975年以降、このような用例は見られなくなる。韓国語における「具体的」空間を意味する「스페이스 (スペース)」が1960年代と1970年代には、頻度は少ないものの使用されているが、その後、使用範囲の拡張や使用頻度の増加は見られない。これは、既存の語彙「공간 (空間)」が持つ意味を外来語の「스페이스 (スペース)」が担うことは難しかったと解釈できる。その結果、現代の新聞ではほとんど見られなかったと考えられる。

表 14 日本語の「スペース」の1950年から2020年までの推移

スペース	金 (2011)						筆者		
年度	1950	1960	1970	1980	1991	2000	2000	2010	2020
出現度数	0	1	10	15	16	38	78	43	49
出現率	0	0.86	4.64	7.04	8.78	16.29	20.37	14.62	19.89

次に、日本語の使用状況を見てみよう。表14は、2節に述べた、先行研究の金(2011)のデータの1950年から2000年までと筆者のデータによる2000年から2020年までの新聞用例の中での「スペース」の量的推移を示したものである。日本語の場合は、韓国語とは異なり、1960年に初出現してから徐々に出現率が高くなるのが分かる。2010年に若干減少するが、2020年に再び増加するといった、ある程度安定して増加する傾向が確認できる。

このように、韓国語の場合、出現率が非常に少なく、1995年以降に増えるように見えるが、3章での用例で確認した結果、具体的空間を指す意味としての使用はほとんどないことがわかる。しかし、日本語の場合、出現率が高く、「スペース」が出現し始め、その後、ある程度安定して使用し続けてきたことがうかがえる。

そこで、現代で見られた具体的空間を指す「スペース」がいつ頃使用され始め、どのように変化してきたのかを「SHC雑誌」のデータを用いて確認する。「SHC雑誌」は、1933年から2013年まで8年ごとに総合雑誌のデータを収集しており、1933年からは『中央公論』、1965年からは『文藝春秋』を利用してデータを作成している。現在、コーパス検索アプリケーションである『中納言』で公開されているため、SHCデータから「スペース」を検索し、用例を集める。本稿では、戦後から現代にかけての推移を分析するため、1949年から2005年までのデータを使用する。

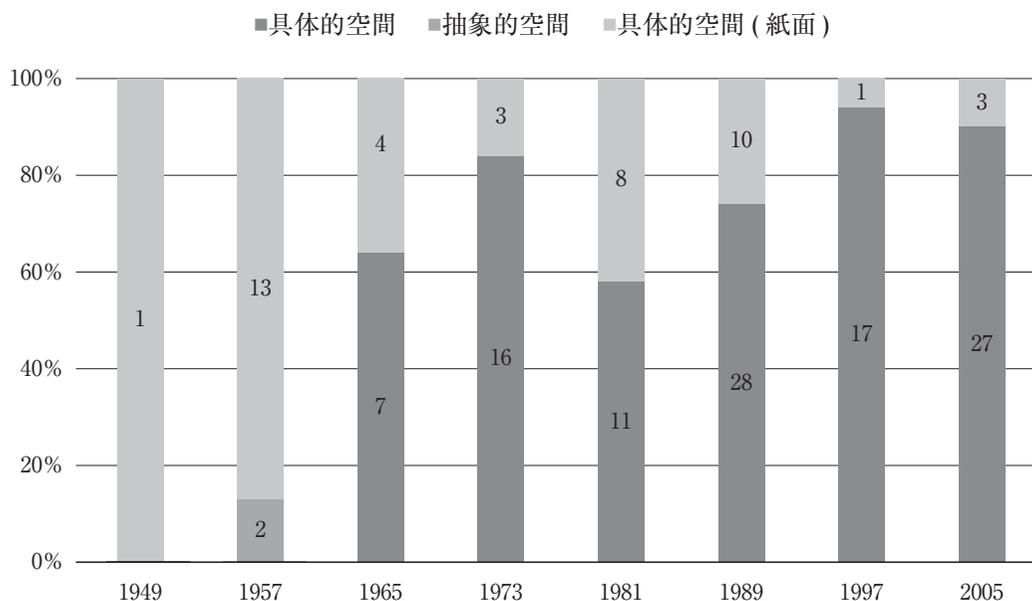


図1 SHC コーパスにおける日本語の「スペース」の1949年から2005年までの意味領域の推移

図1は、現代の分析で用いたコロケーション情報を参考にして「スペース」の意味を大まかに「具体的空間」「抽象的空間」「具体的空間（紙面）」の三つに分類し、その出現度数を示したものである。ここでは、コロケーション情報を含め、「スペース」が含まれる文の全体を確認して意味を把握した。

まず、1949年には、具体的空間（紙面）を指す意味として1例が出現している。1957年には、15例中の13例が具体的空間（紙面）を、残りの2例が抽象的空間を指す意味として出現している。

[1957年、中央公論]

(13) とにかく、あらゆる鐵のカーテンのすき間から、流れ込んでくる西歐文明は、ソ連大衆欲求に、大きな地位とスペースを占めはじめている。

(14) 今日、私がみたソ連は、食料品店は大混雑はきたしているものの、行列や兵隊の整理などという場面は、一度だつてなかつた。それだけ、變つてきているのである。こうした變化は、今後もつづくに違いない。何故なら、今なお、大衆の生活は貧困だ。變り得る、大きなスペースがあるのである。

抽象的空間の意味は、1957年以降は見当たらない。1965年には、「建設の余分のスペース」「クロセットを作るのなら、それ程、スペースの節約にも」「道路スペース」「スペースが足りない」など、現代で見られた用例が出始める。1973年には「収納スペース」「部屋は十分そのスペースがある」「墓地のスペース」「装飾的スペース」など具体的空間やその空間の特性・状態を意味する用例がより多く出現し、1981年には、若干その数は減少しているが、引き続き「子供たちのスペース」「十八畳ほどのスペース」「倉庫のスペース」「スペースを節約する」「スペースをとる」など、具体的空間の用例が多く出現している。1981年からは、全体の用例の中、「空間・場所」を意味する「ス

ベース」の用例が徐々に増加していることが確認できる。

紙面の意味は物理的広さだけでなく、情報やデザイン要素の視覚的な配置という抽象的空間の意味も持っていると考えられる。そのため、1949年に「具体的かつ抽象的空間」を意味する紙面から「心理・考え」の抽象的空間へと拡張し、1965年からは抽象的概念は減少して具体的空間を指す意味として広まっていく。それが、表7と8でも示したように、現代には、具体的空間の意味として定着したと説明できる。要するに、日本語において「スペース」は、既存語である「空間」の意味の一部を担い、その使用が拡大していったと言えよう。

## 5. まとめ

本稿では、現代における日韓外来語の使用状況の実態を把握するため、日本語でよく使われているながら、韓国語ではあまり使われない外来語の中から「スペース」を取り上げ、コロケーション情報の分析の観点から、類義語である「空間」との意味関係を確認した。

その結果、韓国語では、外来語である「스페이스 (スペース)」はほとんど使用されず、既存語である「공간 (空間)」が一般的に使用されることが分かった。具体的空間の意味として使用される「스페이스 (スペース)」は見当らなかつた。また、戦後から現代に至るまでの推移をみると、1965年と1975年に「空間・場所」を意味する用例が出現しているが、1例のみであり、その後は見られなくなる。このことから、既存語である「공간 (空間)」が持つ意味を外来語である「스페이스 (スペース)」が担い、その使用が拡大していくことは難しかったと説明できる。一方、日本語における「スペース」は「空間」の意味を一部担い、具体的な用途や目的に関連する部分で使用されていることが明らかになった。戦後の推移を見ると、1949年に「具体的かつ抽象的」と言える「紙面」の空間から「心のスペース」といった「抽象的」空間へと意味が拡張され、1965年からは、具体的空間を指す意味として使用され、現代においては、主として具体的空間の意味として定着していると考えられる。

以上の結果から、日韓において「スペース」の使用状況には差異があり、その実態として「スペース」は「空間」の意味を一部担い使用するが、韓国語の場合は、外来語が輸入されても既存語の意味を担い、使用頻度が増加するという現象は生じにくい」とまとめることができる。

今後の研究では、今回と同様の方法によって、「スペース」以外の語を取り上げ、既存語との意味関係の分析から日韓の外来語に類型や特徴が見られるのかを明らかにしていきたい。

### 【参考文献】

#### 【日本語】

- 橋本和佳 (2010) 『現代日本語における外来語の量的推移に関する研究』ひつじ研究叢書 (言語編) 第86巻。  
金愛蘭 (2008) 「基本語化する外来語とその類義語：ヒトとヒトとの「トラブル」の場合」『待兼山論叢 (日本学篇)』42, pp.19-36, 大阪大学大学院文学研究科。  
\_\_\_\_\_ (2011) 「20世紀後半の新聞語彙における外来語の基本語化」『阪大日本語研究』別冊3。

佐藤琢三 (2013) 「外来語研究における意味分析：「ムード」と「雰囲気」の類義分析による事例研究」『学習院女子大学紀要』15, pp.45-56, 学習院女子大学.

岸本まりこ・孫東周 (2022) 「新聞社説における高頻度外来語の特徴に関する日韓代証券旧—6年間 (2016年から2021年まで) の抽出調査を基に—」『동북아문화연구』제 71 집, pp.119-134.

#### 【韓国語】

Doh, wonyoung · Cha, joon-kyung (2019) 「<고려대 한국어대사전>의 종합적 고찰」『민족문화연구』51, pp.1-54.

CHANG,WON-JAE (2016) 「한일 양국어의 한자어 및 외래어의 분류와 특징」『日本語文学会』73, pp.137-158.

#### 【辞書】

日本国語大辞典, <https://japanknowledge.com/library/aboutlib.html> (最終閲覧日：2023年06月12日)

高麗大韓国語大辞典, <https://ko.dict.naver.com/#/main> (最終閲覧日：2023年06月12日)

#### 【言語資源】

동아일보 (東亞日報) 紙面, <https://www.donga.com/news/Pdf> (最終閲覧日：2023年06月12日)

꼬꼬마 세종 말뭉치 활용 시스템, <http://kkma.snu.ac.kr/> (最終閲覧日：2023年06月12日)

昭和平成書き言葉コーパス (SHC), <https://clrd.ninjal.ac.jp/shc/> (最終閲覧日：2023年06月12日)

毎日新聞社『CD-毎日新聞データ集 2000』

毎日新聞社『CD-毎日新聞データ集 2010』

毎日新聞社『CD-毎日新聞データ集 2020』

web 茶まめ, <https://chamame.ninjal.ac.jp/> (最終閲覧日：2023年06月12日)

Kiwi : 지능형 한국어 형태소 분석기 (Korean Intelligent Word Identifier),

<https://bab2min.github.io/kiwipiepy/v0.8.0/kr/> (最終閲覧日：2023年06月12日)